

第2回希望が丘文化公園将来ビジョン検討懇話会 会議録（概要）

日時：平成27年7月28日（火）10:00～12:00

場所：滋賀県庁 北新館5-B会議室

出席委員：江島委員、神部委員（座長）、黒澤委員、辻田委員、深町委員、前山委員、
涌井委員

欠席委員：なし

【議事要旨】

議事

- （1）希望が丘文化公園将来ビジョンの策定に向けたこれまでの経過と今後の予定について
- （2）希望が丘文化公園将来ビジョン案について

（開会挨拶）

（事務局資料説明）

○委員

- ・近年、人と人との絆やコミュニケーションが重要視されてきている中で、文化公園の文化を「人と人がつながり、人々の喜びや安らぎに満ちた公園」として新たに方向づけしたことは良い。
- ・新たな段階に達していくためには、新たな取組が必要となってくるが、ビジョン案の取り組み方では弱い。起爆剤となるような取組をしていかないと、大きく変わらない。
- ・現在の運営管理団体が運営されているホームページなどを見ても、様々なイベントを開催されており、グラウンド・ゴルフの結果なども載せられて、丁寧に対応されている。キャンプリーダーの育成などきめ細かく対応されており、非常に評価できる。引き続きその取組を続けてもらいたい、それに新たな取組が必要であり、各主体の取組の中で県の姿勢をもっと強く打ち出すべきではないか。
- ・駅伝大会などスポーツ面での活用はよく伝わってくるが、それ以外の面では県としての取組が見えてこない。県政の施策を宣伝するアンテナショップのような場にしてはどうか。
- ・例えばアール・ブリュットの作品を展示するなど、県では今こんなことに取り組んでいますと伝えるイベントをどんどんやっていても良いのではないか。
- ・教育の面では、「もりのようちえん」など幼児教育の取組が全国的に行われている中で、県の姿勢が見えてこない。幼児教育の指導者の育成など、希望が丘の場の機能を活かした研修会やイベントをどんどん開催してはどうか。
- ・県民や各種団体を引き込んでいくための工夫がもっと必要ではないか。条件を整え、県民や各種団体が希望が丘でイベントを実施してもらうことがまず重要である。そのことで多くの人が希望が丘で出会うことになる。

- ・「人と人のつながり」を言う前に、「出会いの場」が必要である。多様な主体が希望が丘でイベントを実施し、その中で人と人が出会い、人と人がつながっていく公園にできればと思う。

○委員

- ・各主体の取組の中で県の姿勢を明確に打ち出すこと、公園サポーター以外の部分でも県民を引き込むことの視点は大事であり、どのように取り組んでいくか考える必要がある。
- ・来園者アンケート結果を見ると、隣接市町である湖南省市・竜王町の利用が少ないように思う。隣接市町の広報で希望が丘をアピールをするなど、隣接市町と連携し、身近な人たちが利用しやすい取組を進めることでおらが公園のような意識につながるのではないかと。

○委員

- ・人と人がつながるという視点だけではなく、人と公園がつながるという視点も大事になってくる。
- ・希望が丘公園という場がどのような場かと考えると、丘陵地に川が流れ、特徴的な花崗岩で構成され、植物が育ちにくい貧栄養地で、湿地や湧水があるといった自然環境となっており、自然公園となるまでは、地域の人たちにとっては里山であり、薪をとるなど資源利用の場になっていたと思われる。
- ・そうした場に自然公園が作られたことを考えると、自然公園になってからも健康的な森づくりだけではなく、持続的に資源を活用することが大事となってきているのではないかと。
- ・樹木を伐るのは良くないという考え方ではなく、貧栄養という環境を活かすとともに、森や川などの水辺を適切に管理し利用する考え方を持つことが、自然公園の特質を活かすことでもあり、地域の文化を大切にすることにもつながる。
- ・強みで記載している「生態系の保護」というよりも「生態系を活かすための整備・管理」といった積極的な関わり方を持つことが大事ということが伝わる記述の方がよいのではないかと。「貧栄養」「湿地」「湧水」「里山」「持続的な資源利用」といったことがもう少し強調されても良いのではないかと。
- ・里山再生や持続可能な資源利用のあり方ということを新たに考えていくような将来像と方向性を出していただきたい。
- ・公園内に桜や紅葉などが植えられているが、その土地にあった適切な樹木が選択されていない箇所もあるので、植栽計画を立ててその土地にあった樹木の管理・利用を検討する必要があるのではないかと。
- ・道の設定、名称の付け方、案内表示などのこれからの利用の形態にあった動線計画も必要ではないかと。レンタサイクルについては、数を絞り、ターゲットにあわせてうまく使ってもらえるような検討が必要ではないかと。
- ・取組の方向性として場の機能ごとにまとめているが、あわせてその取組がどこの場所を想定しているのかという空間計画を立てることで、場がつながっていくのではないかと。

○委員

- ・ 希望が丘文化公園の文化をどのように捉えて、その文化を広げていくためにどのような取組が必要なのか考えていかなければならない。
- ・ その一つとして人と人のつながりというものがあるが、深町委員の指摘にあったとおり人と自然のつながりの視点も大事ではないか。
- ・ 文化とは人々によって習得されたり伝承されたりする行動様式・生活様式であるとするならば、滋賀の文化で重要なことは人と人の絆、人と自然とのつながりを大切にする行動様式・生活様式を育てて伝えていくことではないか。
- ・ 基本理念を「人・自然との関わりを深め、心の豊かさを育む公園」としてはどうか。公園の環境を通し、人との関わり方、自然との関わり方を学びながら、人との絆を大切にし、自然を大切にする文化を希望が丘から育てていこうという理念が良いのではないか。
- ・ そうした意味では、来園者アンケートで希望が丘の良さを「自然が豊か」として居る方が多い中で、来園目的で「自然観察」としている方が少ないのは課題となってくるのではないか。人と自然が関わる取組が少し弱いのではないかと感じる。

○委員

- ・ 京都・大阪から見れば自然というものが魅力になるが、滋賀から見れば生活の中に自然があるため魅力になりにくいのではないかと感じる部分もある。自然環境の保全・整備も大事であるが、同時に県民の方にも目を向けてもらうような取組が必要になるのではないか。
- ・ 各主体の役割の中で、それぞれの主体に期待していることが書かれているだけで、公園がそれぞれの主体にどのように働きかけていくのかを書くべきではないか。
- ・ 公園が主体となり、利用している団体の一つにまとめたり、各団体から指導者の派遣を依頼したりといった働きかけをすること、更には、公園で育成したキャンプリーダー等を地域に派遣するといった地域への働きかけをすることが大事ではないか。
- ・ 公園サポーターの公募についても、こちらから各主体に積極的に呼びかけていく必要があるのではないか。
- ・ 家族で来られている方に対して、家族の団らんを楽しまれているからそっとしておくという考え方だけではなく、声をかけていくことも大事ではないか。
- ・ 野洲市に比べ竜王町の利用者が少なくなっているが、希望が丘に行くバスの本数が少なく、車での来園が必要となるため、地元の施設という感覚がないのではないか。

○委員

- ・ 将来像の図で、中心に希望が丘という主体があって、そこから各主体につながって、一緒に取り組んでいくという見せ方が良いのではないか。

○事務局

- ・ 体験プログラムを用いて園外での地域交流・地域活動を行うなど、希望が丘が主体

となって各主体とつながる取組は必要と考えており、将来像の図でそれが伝わるように修正させていただく。

○委員

- ・来年度から 5 年間、希望が丘で全国中学校駅伝大会を実施することになっている。芝生で広いコースをとれる施設は全国的に稀であり、駅伝という面では素晴らしい施設である。
- ・前回全国中学校駅伝大会を実施した平成 9～11 年の施設の利用者数がかなり増えたことを考えると、本大会が来園者数の増加とともに、全国に希望が丘をアピールできる機会ではないかと思う。
- ・全国中学校駅伝大会の調整の中で、2 市 1 町にとって希望が丘が近い存在にはなっていないように感じた。
- ・将来像の図の中で行政と他の主体が同じレベルになっており、貸館的な取組になってしまうかという印象を受けた。

○委員

- ・希望が丘と隣接市町との連携・協力関係がまだ弱いように感じる。公園が主体としてどのような役割を果たすのか、周りの主体とどのように関わっていくのかということを確認に描く必要があるのではないか。

○委員

- ・本日の意見を実現化するためには、コーディネーターや地元と関連のある方など、長期間、責任と権限を持って調整する人材が必要であり、指定管理にプラスするような人・お金の使い方を考えることが県の役割としてあるのではないか。

○委員

- ・概要版の中で、文化公園の文化の位置づけとして、自然・憩い・スポーツとリンクするような見せ方が必要ではないか。
- ・なでしこジャパンの宮間選手が「女子サッカーを文化にしたい」と言っていたが、文化は流行り廃りに左右されることなくその土地に根付いていくものであり、希望が丘においてはここでしかないもの、ここでしか体験できないものを強調していくことが文化につながっていくのではないか。
- ・基本理念の中で、スポーツ・レクリエーションを通して、自然体験を通して、憩いの場であることを通して人々がどうなるのかというアウトプットまで考え、「人々が成長する公園」「心と体が豊かになる公園」と表現できた方が良いのではないか。
- ・野外教育では、「自然と自分」「人と人」「自分自身」「生態系と自分」との関係性を学ぶ 4 つの柱を踏まえて、人がどのように成長するのかを考えている。
- ・青年の城・野外活動センターでは県外利用者が多く、スポーツ施設は県内利用者が多い現状を踏まえると、スポーツ施設の県内利用者を青年の城・野外活動センターに呼び込む取組、例えばサッカーをしに来た方がキャンプもすることで成長できるといったプログラムのパッケージ化が必要となってくるのではないか。

- ・トップアスリートが野外体験を通してチームビルディングをするといった研修も増えており、そういった面で希望が丘の強みを活かせるのではないかな。
- ・5つの機能の場がそれぞれ重なり、人々の成長につながることを希望が丘で根付かせていくことが文化の位置づけとして良いのではないかな。

○委員

- ・希望が丘で豊かさを育むという考え方は、滋賀県基本構想の理念である「新しい豊かさ」とマッチングしている。
- ・来園者数を85万人から目標の100万人まで持つていくためには、これまで通りの取組だけではなく、意見のあったとおり起爆剤となるような取組が必要と感じている。
- ・量的な目標だけではなく、来園者の満足度や豊かさを表す指標など質的な目標もあった方がよいのではないかな。
- ・今後議会等に説明していく中で、実現の可能性について問われるのではないかなと思われ。希望が丘の経営改善・収益増を図る、選択と集中を行う、みんなで連携して取り組んでいくといった説明をしていく必要があるのではないかな。

○委員

- ・将来像の図の中で各主体の矢印を双方向にした方がよいのではないかな。

○委員

- ・本日様々な意見をいただき、目指すべき将来像についてある程度整理されてきたのではないかなと思う。
- ・本日の意見を踏まえ、事務局でビジョン案を修正し、パブリックコメントをお願いしたい。

○事務局

- ・ビジョン案の修正については、座長および事務局に一任いただくようお願いしたい。次回の検討懇話会ではパブリックコメントでの意見を踏まえた最終案について意見をいただきたい。